

31 大内義隆

戦国期に花開いた 絶頂の西の京

1507～1551

官位 従二位 大宰大貳 兵部卿 侍從
菩提寺 龍福寺
墓所 大寧寺（長門市）

北部九州の攻防と大宰大貳

安芸の陣中で病に倒れた父義興の死により、義隆が家督を継ぎました。中央では「堺公方」足利義維（側室は義隆の妹）勢と、近江に避難した將軍足利義晴勢との対立等により政治状況が激変します。豊後の大友義鑑は、義晴支援を義隆が妨害しているとし



大内義隆画像（龍福寺蔵）

て、周辺諸勢力による大内包囲網を企て、筑前・豊前への侵攻を図ります。義隆は長府に本陣をおき陶興房らを九州に派兵、筑前の大友氏の拠点立花城・柑子岳城を攻略しました。筑後（福岡県南西部）・豊前でも大内勢は優位に展開し、豊後への侵攻を始めますが、京に戻った將軍義晴の仲裁により大内方は兵を引き揚げ、後に大友氏と和睦しました。

義隆は後奈良天皇の即位式の費用を献上しました。九州の宿敵少貳氏との抗争で優位に立つため、大宰府において「少貳」より格上の大宰大貳の地位を望んでのものでした。後に当時の戦国武将として例のない従二位にまでのぼります。大内勢は肥前の少貳資元を攻め自刃に追い込み、筑前・肥前を平定した名将陶興房は周防に凱旋しました。

毛利隆元山口滞在と郡山城の戦い

安芸国人領主連合の盟主となった毛利元就は、大内陣営として関係を強めていきます。元就の長男隆元は、人質として数年間山口で過ごしました。木町大蔵院に滞在し厚遇され、義隆が烏帽子親となり元服式を行いました。勸進能や犬追物を見物するなど、京々なみの文化的な環境のもとで見聞を広め、教養を磨いた「山口留学」でもありました。祇園祭の日には、立売の隅に二階の間を借りて見物した記録も残っています。

義隆は將軍から上洛を待望されながら、尼子氏との対立の激化により、京にのぼることはありませんでした。

尼子晴久（詮久）による安芸国侵攻への対処のため、養子晴持（恒持）と出陣、岩国横山に本陣を置きます。陶興房を継いだ隆房（晴賢）・杉重矩・内

藤興盛（各国守護代）らの大内軍が厳島を経て、元就の本拠・吉田郡山城（広島県安芸高田市）包囲戦で尼子勢と激闘の末、双方に大きな損害が出つつも結果的には大内勢が大勝し、晴久は出雲へ逃れました。

出雲遠征の大敗

義隆は本陣を安芸国内に進め、厳島神主友田興藤が籠る桜尾城を落とします。隆房・元就らによる銀山城への攻撃により安芸国衆武田氏が滅亡、安芸を平定しました。

義隆は尼子氏領国の出雲遠征を決行、相良武任らが尼子方に対する寝返り工作を行いつつ、赤穴城（島根県飯南町）を攻撃、隆房の指揮による力攻めで、損害を被りながら勝利を収めました。尼子晴久本拠の月山富田城（島根県安来市）付近に陣を置き、激戦が展開、攻城は思うような成果が得られず、さらに尼子方から大内方に寝返った国衆の多くが、調略により再び尼子勢に戻るという事態が起こって戦況は悪化します。義隆は撤退を決断、海路敗走しますが、嗣子晴持は乗った舟が転覆し溺死、陸路により撤退した大内勢は尼子勢らの追撃を受け多数の戦死者が出ました。

帰国後間もなく石州口や安芸の守りを固めました。大内水軍による村上海賊衆への攻撃・調略も進められ、やがて芸予諸島をほぼ傘下に収めます。

大友義鑑の子晴英（義鎮（宗麟）の弟、母は義隆の姉妹、後の大内義長）を養子に迎えることにしますが、側室おさい（太政官役人小槻伊治の娘）との間に息子義尊が生まれ、反故になります。

出雲遠征失敗の経験からか当主自ら出陣しない弱腰や、政治への意欲が薄れた義隆への不満が高まる中、側近相良武任と、領国諸階層の要求に対処する周防守護代隆房らとの対立が深まっています。

陶氏の挙兵と義隆の最期

豊前守護代杉重矩は隆房の謀叛計画を告発しますが、義隆は聞き入れず、のちに重矩は隆房と和解しました。

備後国（広島県東部）神辺村尾城を攻略し備後国をほぼ掌握、備中国（岡山県西部）への派兵も着手します。勢力範囲は大内氏歴代で最大となりました。

今八幡宮・仁壁神社例祭に出席予定の義隆と武任を隆房が襲撃するとの風聞が流れるなど情勢は緊迫度を増し、隆房は暇乞いをして自領富田（周南市）に引き籠りました。義隆が大友氏の使者をもてなす宴を催すなどの日々を送っていたところ、隆房が挙兵し徳地口・防府口から山口へ迫っていると報が入り、義隆は法泉寺に退避します。さらに逃れ仙崎から船に乗り脱出しようとするが、荒天のため止むなく引き返し、大寧寺で自刃しました。義尊や側近、山口滞在中だった公卿達も死をとものにします。一説によると、義隆は山口への遷都を計画していたともいわれます。



菩提寺龍福寺（大殿大路）



大内義隆の墓（長門市・大寧寺）

1521	父義興と松茸狩り・鷹狩り
1528	義興死去
1532	大内氷上興隆寺梵鐘寄進
1534	今八幡宮鰐口寄進
1536	大宰大式に任じられる
1537	毛利隆元、山口に入り元服
1538	大友義鑑との和睦成立
1539	「三韻一覽」刊行
1540	吉田郡山城の戦い
1543	月山富田城の戦い 鉄砲伝来
1546	宮崎宮（福岡市）本殿・拝殿建立
1548	従二位に昇進
1549	毛利元就山口下向 備後国村尾城攻略
1550	万福寺地藏菩薩坐像制作 サビエル来山
1551	陶隆房挙兵、義隆大寧寺で自害（45歳）

箏曲組歌

公家達との交わりの日々を送った義隆。公家・雅楽奏者より朗詠や管弦を学んだといわれる義隆のもとで、和歌を歌詞とする箏曲組歌が始まったと伝えられます。



箏曲組歌発祥之地碑（築山神社境内）



万福寺（堂の前町）

黒地藏

義隆の菩提寺龍福寺の末寺・万福寺には、黒地藏とよばれ親しまれてきた地藏菩薩像があります。頭部の銘文によると義隆44歳、若君6歳、御袋30歳とあります。陶晴賢の謀反によって義隆とその息子が最期を遂げる前年に、義隆がつくらせたものです。不穏な情勢下で身の不安を感じる中で、義隆自身と家族の無事を、そして一族の繁栄を願う想いを、延命地藏に託したのでしょう。